

令和5年7月18日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大 野 廣 介
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和4年度事業対象）
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和4年度においては、既存事業の実施や拡充などを行いながら、新規事務事業にも鋭意取り組んでいることがうかがえる。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに事務事業に取り組まれない。

記

- 1 小学校と支援学校との協働研究はとてもよい事業なので評価できる。さらなる PR を望む。
- 2 学校のホームページにおいて、リアルタイムな情報を提供できるよう、さらなる充実を望む。保護者と学校をつなぐ一斉メール配信システムは、今の時代に応じた便利な機能なので、評価できる。デジタル化の流れに乗り、さらなる活用を目指されたい。
- 3 学校管理職の育成と教員としての経験を、適切な年齢で、経験が活かせるよう、教員として児童生徒と接する機会を大切にしながら、管理職の育成への両立に努められたい。

- 4 不登校の児童生徒が増えてきている。多様な理由で学校にいけない児童生徒に対し、対面でのアプローチを心がけ、それぞれの児童生徒にあった学校生活の実現へ努められたい。
- 5 町立学校では、年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員の割合が前年度と比べ改善しているものの 30%を超える高止まりの状況となっている。働き方改革を更に進めながら、教員が児童生徒に向き合える時間をもっととれるよう労働環境の改善に努められたい。過酷な労働環境ばかりが先行したイメージとなり、教員離れが進んでいる現状を打開する方策を望みながら、スクールサポートスタッフなど教員のサポート体制の充実に努められたい。
- 6 大規模改修、トイレ洋式化など、学校施設の環境改善の事業は評価できる。経年劣化している施設を今後も環境を改善するための事業を継続的に実施していただきたい。
- 7 科学実験教室など、本町の強みである大学と連携した子ども向け講座は評価できる。今後もさらなる P R を行い、子どもたちの科学に対する好奇心の動機付けとなる講座の開催を期待する。
- 8 子どもたちの居場所づくりとして実施している中学校放課後自習室については、参加者の伸び悩みなどの課題解決に向け、実施形態について検討いただきたい。
- 9 熊取町子ども会育成連絡協議会に加盟する団体が減少しているが、これら社会教育団体の活動が停滞しないよう近隣市町の現状や工夫も参考にするとともに、自治会担当部局とも連携し、団体の活性化に努められたい。
- 10 現在整備中の公民館と文化ホールについて、整備後は道路を挟んだ配置になるので、それぞれの施設を利用しやすいように、環境を整えていただきたい。
- 11 電子図書館について、図書館に行かなくても、電子書籍の閲覧ができることで、多くの方々に閲覧していただける可能性が広がるが、高齢者等も含め幅広く利用されるよう、電子図書館の利用方法の説明会を行うなど利用促進に努められたい。